

NS PHARMACY

薬局薬剤師のみなさまの今日に役立ち、明日に寄り添う



NS Pharmacy 薬剤師インタビュー

患者さんに「良かった」を与える

医療人であれ PART 2

治療時期別の薬剤師コミュニケーション

— うつ病患者さんへの服薬指導は、時期ごとにどのような語りかけをしていくと良いでしょうか。今回は治療開始から2~3か月以降の服薬指導についてお聞かせ下さい（※①治療開始時のお話はVol.7に掲載）。

②2~3か月经過したら・・・

睡眠、食事、日常生活の情報を積極的に聞いて薬を継続する大切さを伝える

治療や通院に慣れてきたこの時期に「様子はいかがですか?」という漠然とした質問では、回答する気持ちがそがれてしまいます。効果が出てきて調子が良い時期なので、具体的に日常生活へ焦点を当てて質問しましょう。「昼間は何をしていますか?」、「夜は6時間くらい眠れていますか?」、「食事はおいしくいただけますか?」など、生活の基盤である睡眠と食事については必ず聞きましょう。さらに、職場への復帰が気になってくる時期なので、仕事を含めた様々な生活変化を確認したいですね。実は、「復職」という一番大切な時期に薬を止めてしまう人がいるのです。環境変化があるときこそ服薬が大切ですから、中断はしないことと、治療継続の意味を伝え続けましょう。そういった意味でも忍容性の高い薬剤は特にこの領域において重要な位置を占めています。

「なぜ薬を飲み続けるのか」の説明

には、脳内の神経伝達物質の調整と神経ネットワークが薬によって改善するものの、十分に自力で維持できるようになるまでには時間がかかることを伝えます。薬は調子が良くなってから少なくとも約6か月は続けること、長く飲み続けたほうが良い人もいるので、患者さんご自身で服薬中止を決めずに、まずは相談してほしいと伝えましょう。

③6か月より長く服用している場合の服薬指導と治療へのかかわり

症状が安定し更に経過したら、長期的視点で今の状態を確認してみます。例えば、自分の快適な状態を100%とすると、今はどれくらい良いのか、6か月や1年前の今頃と比べてどうか、などで評価し、自分の今の具合を確かめます。大切なのは医師や家族など、他人ではなく自分自身で評価することです。自分が感じ取れる目安がないと人は続かないですからね。まだ十分ではないと思うなら、より良くなるために一緒に治療を続けていくことを伝えましょう。良い状態と感じているなら、医師が

いつまで薬を続けると言っているかを伺います。治療が長く続くと、いつまで治療を続けるのか心配になる患者さんもいますから、私たち薬剤師が薬の継続について確認し、「薬剤師が経過を追っていること」を伝えて安心していただきましょう。

また、コントロールができていない時期は、ご自身の判断で服薬量を調節していることがあります。残薬や飲み方を確認してみましょう。減量時期には1日おきや半量への変更指示が出ていることもありますから要注意です。

医療職としての気持ち 感謝してもらったときの感動こそ原動力

— 先生は患者さんの治療時期に合わせて、深くかかわる要素を積

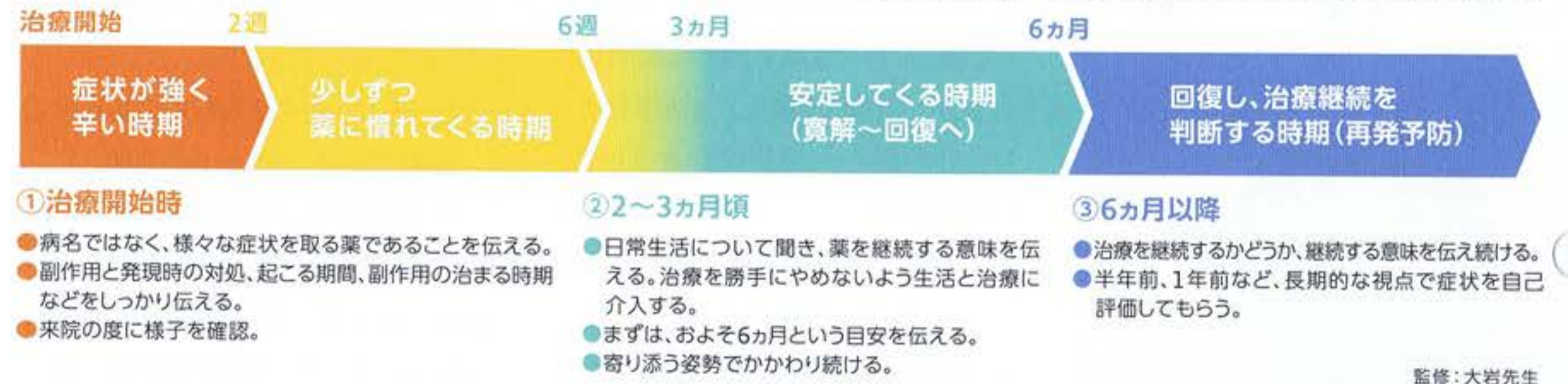
み重ねているんですね。精神科患者さんにかかわる薬剤師へメッセージをお願いします。

私は災害医療も経験し、「医療職として自分が何をすべきか」という心構えを学びました。患者さんを救う、という原点に立てば、自然に何が必要か考えますよね。精神科

医療は、患者さんに服薬指導することで効果が出る時期までの治療継続の直接的な支援ができ、そして、日常生活を取り戻し喜んでいただける治療領域なのです。そうした成功体験をたくさんつくり、それを多くの薬剤師の方に伝播していきたいですね。



図：うつ病治療における治療時期ごとの服薬指導のエッセンス



監修：大岩先生



ハーブ調剤薬局 稲沢店 (愛知県稲沢市) 大岩 眞二 先生

つづきは中面へ

大岩先生が届けたいメッセージ

症状は患者さんの歴史話を聞かなきゃ始まらない

精神科領域での患者さんの症状は、その方自身の歴史です。「頭が痛い」、「眠れない」は、薬だけで解決できない環境や人間関係からくることも多々あります。だからこそ、話を聞き、受けとめ、薬を通じ

て患者さんの生活を良い方向へ支援できたとき、本当に喜びを感じられるのです。他の領域の治療とはちょっと異なる薬剤師体験ができますよ。

